【再評価】

Ｎｏ．２　　県道７０９号（中井羽根尾）　道路改良事業

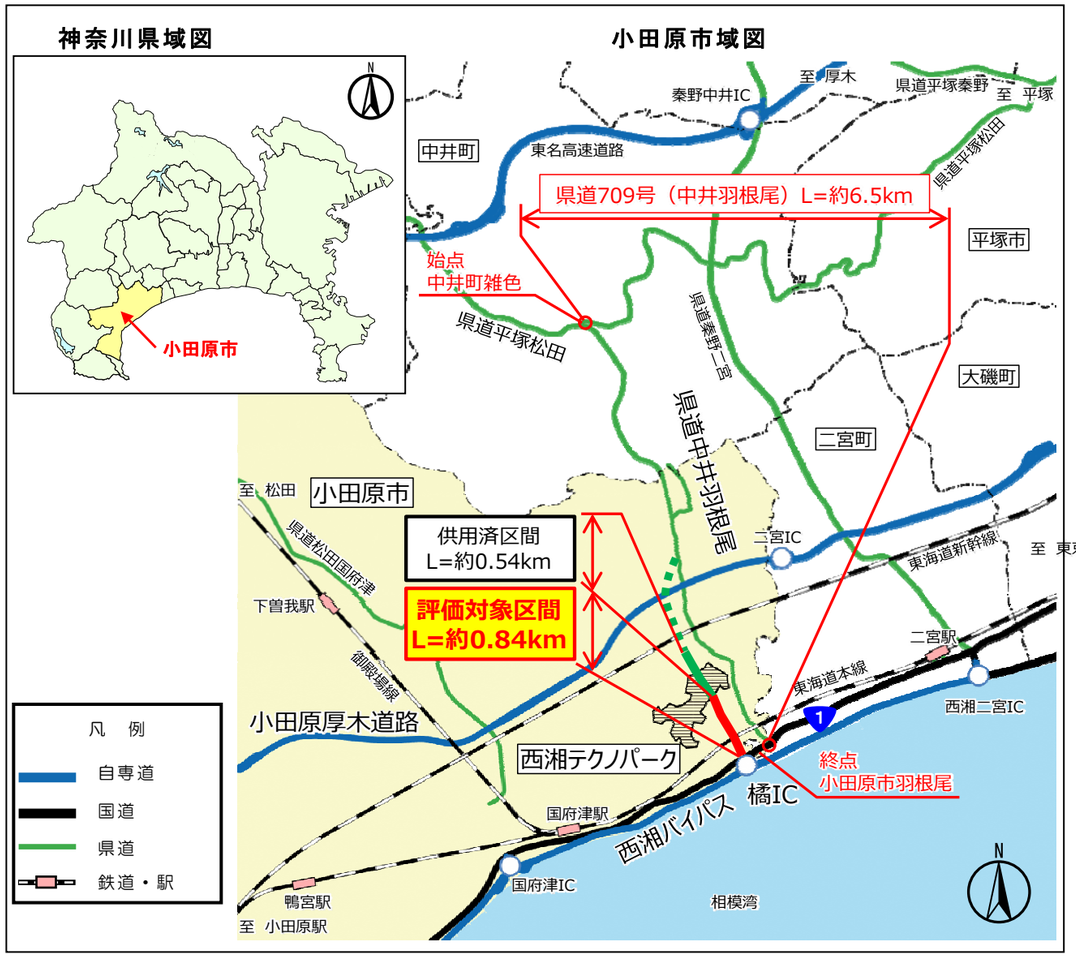
◆　事業概要

１．概要

１）全体の概要

ア）本路線は、中井町雑色の県道７７号（平塚松田）を起点とし、小田原市羽根尾の国道１号に至る延長約６.５ｋｍの幹線道路である。

イ）県西地域の道路ネットワークの骨格を形成し、南北の交流連携を支える路線であり、沿道で整備された工業団地（西湘テクノパーク）へのアクセス道路としての機能も担っている。



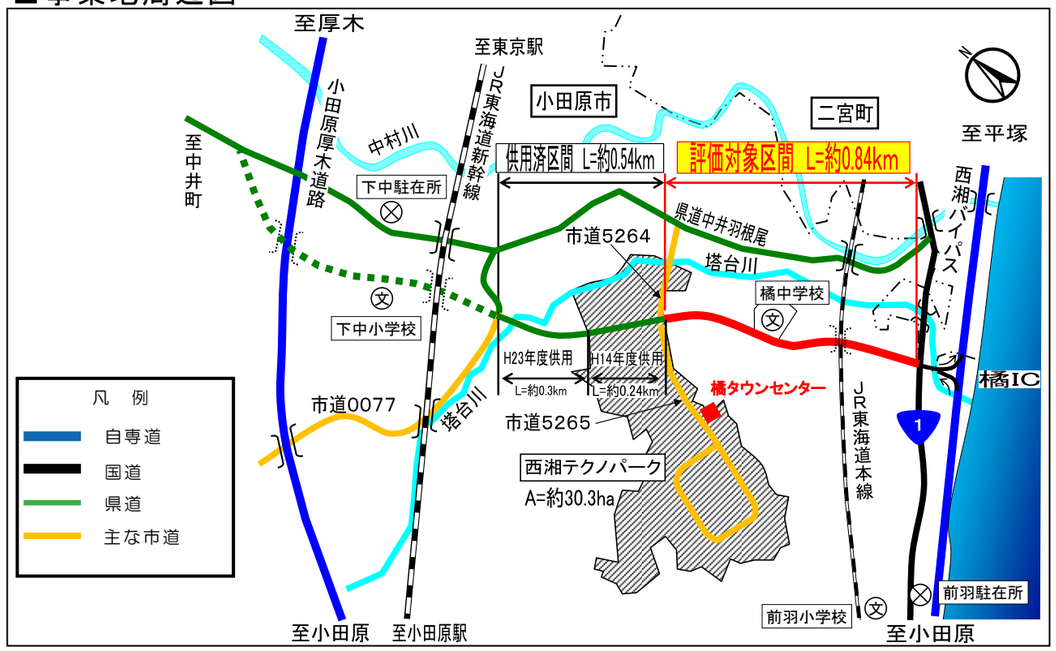
２）評価対象事業の概要

ア）評価対象区間は、西湘テクノパークから西湘バイパス橘 IC につながる国道１号までの延長約０.８４ｋｍ区間であり、JR 東海道本線と立体交差する計画である。

イ）評価対象区間の北側約０.５４ｋｍは、平成２３年度までに供用済みである。

ウ）評価対象区間は、平成２５年度に事業着手している。

■事業地周辺図



３）評価対象事業の位置づけ

ア）県の計画：

ａ）かながわグランドデザイン実施計画

・「交流幹線道路網の整備」として位置づけ

ｂ）かながわ交通計画（かながわ都市マスタープランの部門別計画）

・一般幹線道路網に位置づけ

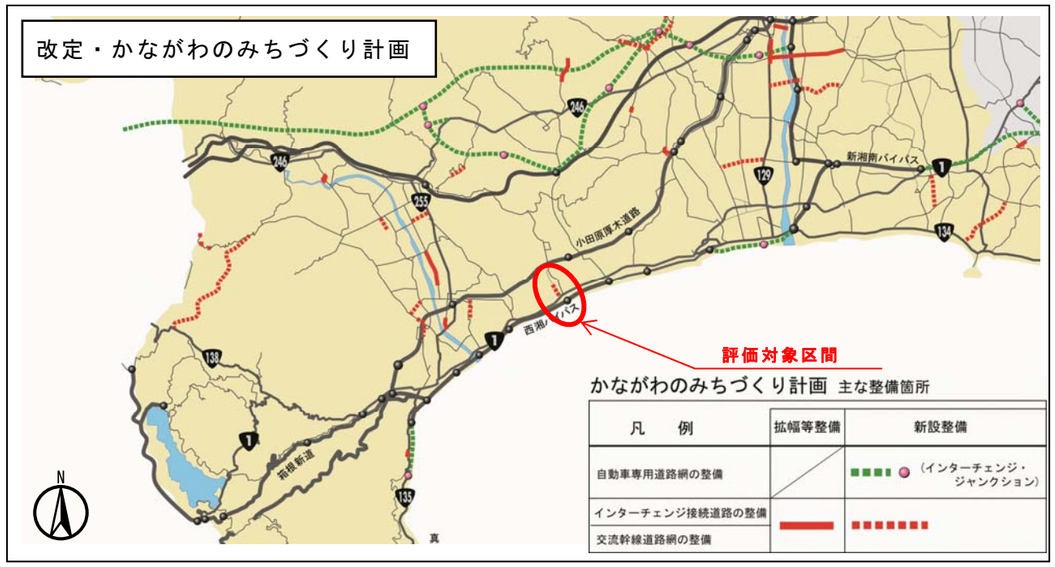
ｃ）改定・かながわのみちづくり計画

・「交流幹線道路網の整備」として位置づけ

イ）　市の計画：

ａ）小田原市都市マスタープラン

・「県道709号（中井羽根尾）を補完する幹線道路」として位置づけ



【再評価】

Ｎｏ．２　　県道７０９号（中井羽根尾）　道路改良事業

２．事業の経緯や必要性

１）経　緯
- 平成　６　年度：都市計画決定
- 平成２５年度：事業着手、用地取得開始

（参考）工業団地（西湘テクノパーク）土地区画整理事業
- 平成　７　年度：土地区画整理組合設立
- 平成１２年度：企業用地分譲開始
- 平成１５年度：企業立地進出開始

２）必要性
ア）工業団地へのアクセス道路として、整備する必要がある。
イ）現道は、幅員が狭く、歩道が未整備であるため、交通をバイパスに転換させ、歩行者等の交通の安全を確保する必要がある。

３．事業の目的

１）工業団地へのアクセス機能の強化
２）地域の交通安全の向上

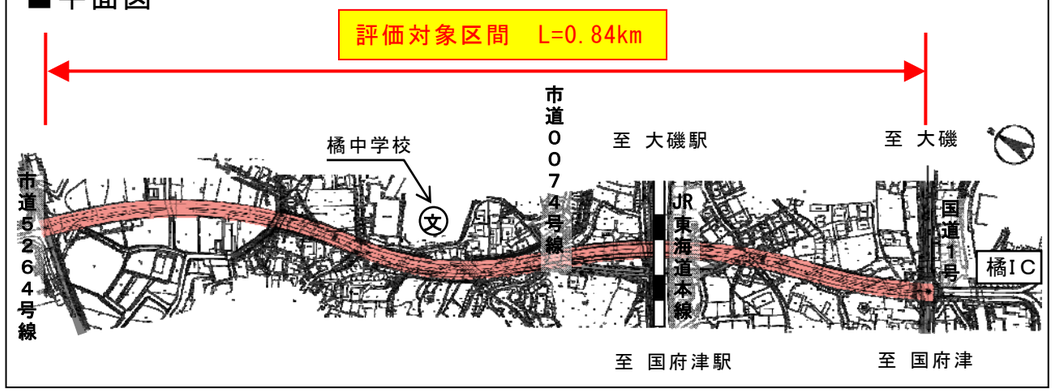
４．事業の内容

１）起 終 点：小田原市羽根尾 ～ 小田原市前川
２）事業延長：約０.８４ｋｍ
３）幅　　員：１４.０ｍ
４）交 通 量：計画交通量
【ﾊﾞｲﾊﾟｽ部】：　８,０００台／日（平成４２年推計）
現況交通量
【現 道 部】：　８,１１７台／日※（平成２８年調査）
※１２時間交通量に昼夜率（H27全国道路･街路交通情勢調査1.29）を掛けて算出
５）道路規格：第３種第２級
６）設計速度：６０ｋｍ／ｈ
７）車 線 数：２車線
８）歩道形態：両側歩道
９）主な工種：道路改良工、ボックスカルバート工

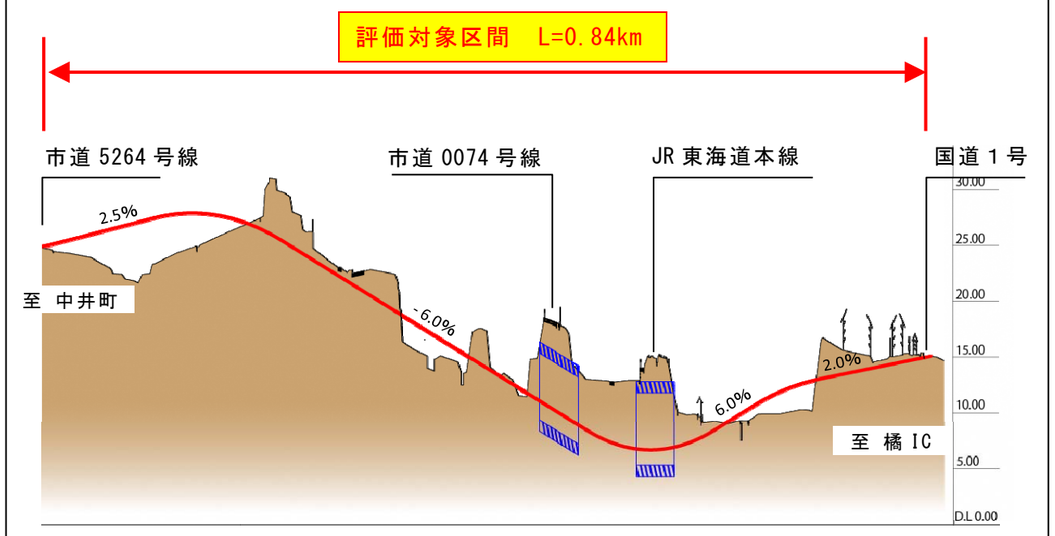
５．　事業実施にあたって配慮した項目

・評価対象区間は、大型車の交通量が多い一方で、沿道には中学校や住宅が立地していることから、高機能舗装などの騒音対策を実施することとした。

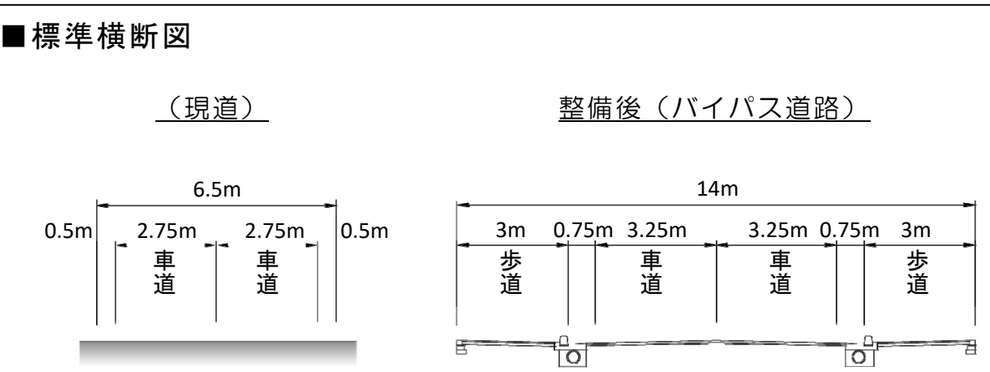
■平面図



■縦断図



■標準横断図



【再評価】

Ｎｏ．２　　県道７０９号（中井羽根尾）　道路改良事業

◆チェックリスト

（１）事業の必要性等に関する視点

①事業を巡る社会経済情勢

ア）地域の状況
- 現道に沿って人家が連担している。また、現道に並行して二級河川中村川が流下している。

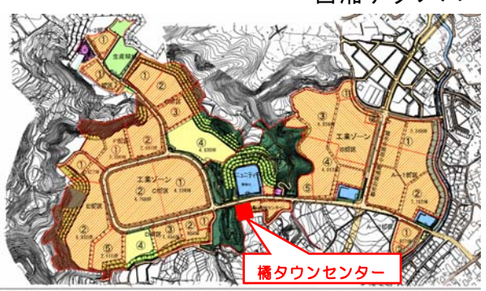
イ）地元の意識
- 地域活性化や交通安全の確保など、バイパス整備への期待が大きい。

ウ）事業地の状況
- 現道は、大型車の交通量が多く、また、幅員が狭く歩道が未整備である。

エ）周辺の環境
- 市内最大規模の工業団地である西湘テクノパークが立地しており、現道がアクセス道路として利用されている。
- 工業団地内に小田原市のコミュニティー・集会施設「橘タウンセンター」が立地している。また、周辺には、小中学校が立地している。

現道の交通状況

西湘テクノパークの立地企業　（平成３０年１月時点）



企業用地のうち約９割が分譲済

会社名	業種	業務内容
(株)幸楽苑	飲食業	麺・スープ等製造
アルフレッサ(株)	医薬等卸販売	物流センター
重本電気工芸(株)	窯業・土石製品	耐火・耐断熱材材料加工
児玉化学工業(株)	製造業	プラスティック加工
(株)山安	食品加工業	食品工場
(株)湘南精機	精密機械	機械部品製造
鹿島建設(株)	総合建設業	機械技術センター
(株)宮田	菓子卸売り	配送センター
(株)エクスワン	製造業	鋳型・工具製造等
アネブル(株)	製造業	製品試験施設
相日防災(株)	消防用設備	物流センター
日本ジメフィジックス(株)	化学	医薬品研究・製造
(株)コイワイ	製造業	鋳型関連
井出徳建設(株)	総合建設	木材加工センター

計 14 社　　※出典：小田原市経済部産業政策課 HP

②事業の投資効果等

■費用対効果　Ｂ／Ｃ　＝　64／44　＝　1.4

総費用：44 億円
- 事業費　：　43 億円
- 維持管理費　：0.66 億円

総便益：64 億円
- 走行時間短縮便益　：　62 億円
- 走行経費減少便益　：　1.5 億円
- 交通事故減少便益　：0.01 億円

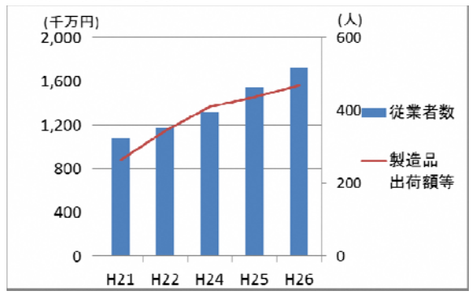
■経済的内部収益率（EIRR）　5.8%

■上記便益に算定されていない効果

ア）地域の活性化
- 西湘テクノパークの従業員数及び製造品出荷額は増加傾向にあり、西湘テクノパークへのアクセス機能の強化により、更なる地域経済の活性化が期待できる。
- 小田原市の施設である「橘タウンセンター」は、年間約３万人の利用があるが、評価対象区間の供用により、アクセス性が向上し、地域のコミュニティー活動の活発化など、地域の活性化が期待できる。

イ）安全・安心・利便性
- 交通がバイパスへ転換することにより、通学路に指定されている現道の通行車両（特に大型車）が減少し、沿道環境が改善されるとともに、歩行者等の安全性の向上が期待できる。

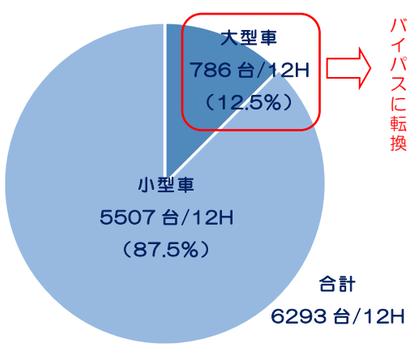
西湘テクノパーク周辺地区の従業員数・製造品出荷額



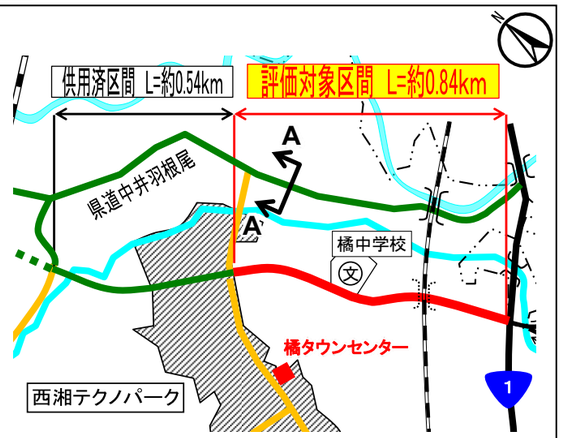
※出典：小田原市統計要覧（H23 年はデータなし）

橘タウンセンターにおけるコミュニティー活動（子育て交流イベント、健康体操等）

現道の交通量



A-A 断面における交通量



【再評価】

Ｎｏ．２　　県道７０９号（中井羽根尾）　道路改良事業

③関係する地方公共団体等の意見

■小田原市橘商工会　：　地域活性化のため、西湘テクノパークと西湘バイパス橘IC間のバイパス整備の早期完成を期待する。

■地元自治会連合会　：　現道は幅員が狭小で、歩道もない上、大型車の通行も多いため、歩行者等の安全確保のため、バイパスの早期整備を要望する。

（２）事業の進捗の見込みの視点

①事業の進捗状況

■事　業　化　年　度：平成２５年度
■用 地 着 手 年 度：平成２５年度
■進捗率　　：６％　（用地取得率：３８％）
■供用率　　：０％
■残事業の内容等：調査、用地取得、道路改良工、ボックスカルバート工

②これまでの課題に対する取り組み状況

・事業を円滑に進めるため、設計、施工に関する協議に日時を要する鉄道との立体交差について、鉄道事業者との調整を行っている。

③今後のスケジュール：

・用地の早期取得に努めるとともに、順次道路改良工などを進め、事業進捗を図る。

項目＼年度	H30（2018）	H31（2019）	H32（2020）	H33（2021）	H34（2022）	H35（2023）	H36（2024）	H37（2025）	H38（2026）	H39（2027）	H40（2028）	H41※（2029）
調査	■	■	■			■ JR立体交差部設計	■	■				
用地取得			■	■	■	■	■	■	■	■		
工事						■	■	■	■	■	■	■

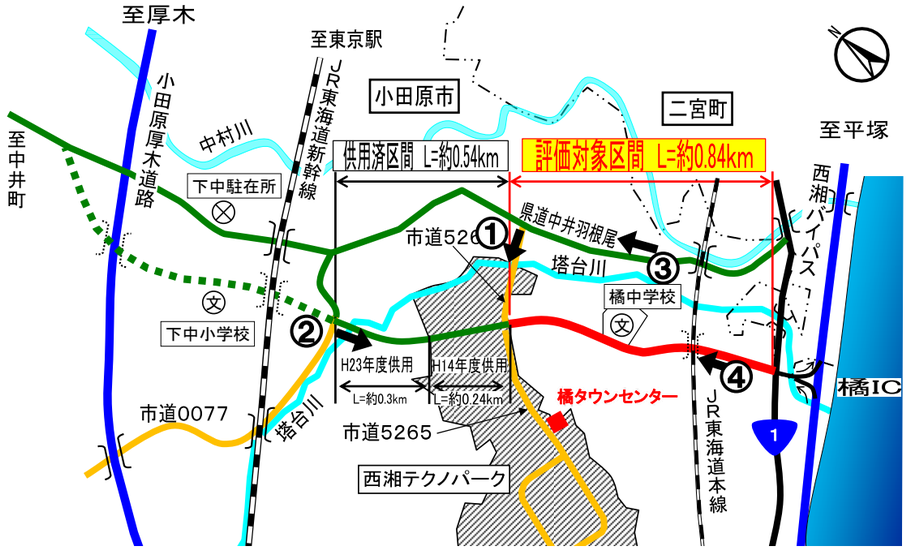
※完成年次については、交通量推計の予測年次により設定しています。

（３）コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

■代替案立案等の検討

・評価対象区間北側の区間約０.５４ｋｍは既に供用しており、これと併せて西湘テクノパークから西湘バイパス橘 IC へのアクセス道路としての機能を発現するためにも代替案は難しく、現計画による整備が最善である。

■評価対象区間の状況



①テクノパークへ出入りする大型車

②供用済み区間の道路

③現道状況

④JR 東海道本線との交差箇所

◆ 対応方針（案）

継　続	本事業は、工業団地へのアクセス機能の強化による地域経済の活性化や、地域の交通安全の向上が図られるなど、事業の必要性に変化はなく、重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要がある。